

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」・第8回実証試験の開催概要

- インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、地方自治体（施設管理者）が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術を紹介する**実証試験**を実施しました。
- 第8回実証試験では、鳥取県から提供されたニーズ「パトロールの車載カメラ画像からAI技術により道路の変状を把握できる技術」に対して、民間企業（日本電気(株)）が技術の提供を行い、ニーズ提供者（鳥取県）が道路パトロール及びデータ収集をした結果、民間企業（日本電気(株)）がデータ解析の結果等について説明を行いました。
- 実証試験を受け、鳥取県からは、道路劣化に対するAI診断の効果を確認することができた。今後、道路の維持管理、点検全般においてAI等の活用による自動化を推進していきたい旨のコメントを頂きました。

■日 時：令和5年12月26日（火）13:30～15:00 ■場 所：オンライン形式
 ■参加者：23名【施設管理者 鳥取県：2名 / 民間企業（日本電気(株)）：2名 / インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員：15名 / 中国地方整備局：4名】

○開会挨拶



インフラメンテナンス国民会議
 モーター 宮本 文穂
 (山口大学名誉教授)

○ニーズ提供者挨拶、感想



鳥取県 日野県土整備局
 維持管理課
 課長補佐 西山 勝重
 係長 森本 邦彦

○講評



インフラメンテナンス国民会議
 フォーラムリーダー 藤井 堅
 (広島大学名誉教授)

■技術名「くるみえ for Cities（ドライブレコーダーを活用した道路劣化AI診断サービス）：日本電気(株)」

【鳥取県】



直営によるドライブレコーダーの取付



パトロールの状況



データ収集・確認

【実証試験（オンライン）の状況】

結果

①路面変状の自動検知、診断：◎（目視と同等検知、代替え/定量化可能）
 ②路面性状調査（R3年度）の結果と数値比較：○（性状調査と同等レベルの結果）

- ◆ 日常パトロールを通常通り実施する中で、撮影機器の操作作業も不要で撮影でき、翌朝には路面変状の解析結果を画像で確認頂けた。
- ◆ 路面陥没や表層剥離の地点やその状態も自動検出した画像から確認頂けた。
- ◆ 性状調査結果との数値比較は、差異はあったが同レベルであり、国交省が実施している性能試験の評価方法で合格ラインであることが確認できた。R3年度調査に使用された技術は、10m毎のサブリンク静止画のみを使用（AIでひび自動判別し最後は人間の目で修正）しており差異要因と推定。



診断画像例の説明



質疑応答の様子

解析結果の説明

